



上空五百呎。えい航機と結ばれていたロープが切り離される。操縦かんとペダルを操作すると全長八呎、両翼十六呎の機体が上昇、下降、左右への旋回を繰り返す、自由自在に大空を舞う。

仙台市泉区桂

高橋 弘毅さん(49)

出会いとは七年前。書店で偶然、手に取った五十代の愛好者の体験記を読み、「今からでも遅くない」と思い立った。著者に連絡を取ると、仙台グライダークラブ(仙台市若林区)を紹介された。飛行教習を三年間受け、二〇〇二年十月に自家用操縦士滑空機の免許を取得した。

現在は月に一、二回、見上げる。若林区の霞目飛行場や角田市の専用滑空場で、クラブ所有のグライダーに仲間と交代で乗り、一回二十分ほどの飛行を楽しむ。気流を読み誤り、危ない目に遭うこともあつた。常に危険と隣り合わせだが、独力で飛行を終えた時の満足感は何ものにも替え難いという。



離陸前の点検をする高橋さん

グライダー

単独飛行の満足感 最高